

編集 後記

この秋、ラグビーワールドカップで日本代表が南アフリカを破る大金星をあげ、予選で3勝するという活躍が話題になりました。地道に努力してきた結果が花開いたのは喜ばしいことでした。一方で、スポーツ界はこのような脚光を浴びる機会がない数知れぬ人たちの活動によって成り立っていることも忘れてはいけません。

日本公衆衛生雑誌第62巻第11号をお届けします。原著2編、研究ノート2編を掲載しています。原著の1編目は、市が行っている「介護予防運動」事業に関する情報がどのような高齢者に届いているのか・いないのか分析しています。保健事業に関する情報格差を減らすために参考になる知見と思われまます。2編目は韓国中学生の性行動の実態を、韓国の公的な調査データをもとに分析した研究です。喫煙、飲酒、薬物乱用などの問題行動の他、世帯の経済状況や親の国籍などの社会環境も関連しているなど興味ある結果が報告されています。研究ノートの1編目は、乳児家庭を訪問する事業のために登用された住民では、事業に携わる必要性を認識するために「訪問して良かった経験」が重要であったと報告しています。2編目はスペイン語を母国語とする南米人が、スペイン語対応医療機関に関する情報を得るために行った行動やそのきっかけなどを報告しています。課題として、行政が発信する情報は彼らの情報コミュニティに十分届いていないことが挙げられています。

本号に掲載された研究は国際色豊かでバラエティに富んでおり、公衆衛生上の課題の発見や施策の改善において着目すべき視点に関する情報を供給しています。いずれも華々しく脚光を浴びるような研究ではないかもしれませんが、公衆衛生活動の現場ではこのような情報を必要とする数多くの人たちが日々活動しています。その情報共有の場として欠かせない存在であり続けることが、本誌の重要な役割の一つではないでしょうか。

(田邊直仁)

次号予告 (第62巻・第12号)

原著

埼玉県在住一人暮らし高齢者の食品摂取の多様性と食物アクセスとの関連……吉葉かおり, 他

研究ノート

入院がん患者の地理的な受療行動
二次医療圏とがん診療連携拠点病院に着目した分析……田中宏和, 他

資料

東京都特別区における保健師学生の技術到達度に関する学生・教員・保健師による評価
……鈴木良美, 他